**ティーチング・ポートフォリオ**

**大学名：大手前大学　所属：国際日本学部　名前：古田 紫帆　作成日：2024 年 12 月 27 日**

## １．教育の責任

本学において担当している科目は以下の 2 種類にわけることができます。

・A:1 年生必修科目「キャリアデザイン」の担当

・B:教職課程（教員免許を取得するために勉強するコース）の科目の担当

## ２．教育の理念

「１．教育の責任」において列挙した AB 2 種類の授業カテゴリー毎に説明いたします。

A:

・レポートの書き方やプレゼンテーション（発表）の方法を学ぶ中で、高校までの学び方から、大学での学び方への切り替わりを支援したい。さらに、慣れない大学生活の不安感に寄り添う仲間の存在が重要であると考えているので、他の学生とのつながりをつくり、お互いに相談し合うことができるようにしたい。

B:

・教育実習で授業が実施できるようになったり、採用試験に合格したりすればよいということだけではなく、学校教育で教員が直面する困難を想定した課題に対して、可能な限り多様な価値観や目標や技能をもつ他者と協働しながら最適解を導くことができるようにしたい。

## ３．教育の方法

双方ともに ICT を活用しながらすすめることが共通点です。

それぞれの活用方法については、下記のとおりです。

A：

・議題に対して匿名で発言したり、ゲストスピーカーへの質問を予め出し合ってグループ間で重ならないように共有して優先順位を並べ替えたりしながら主体的に活動できるように ICT を活用している（Padlet の利用)。

・学生個々とチャットシステム（Teams)を用いて履修相談や課題提出に関わる相談を気軽に行うことができるようにしている。

・el-campus を用いてレポートを相互評価している。

B　：

・さまざまな文献を自分たちで調査したりした上で、学生同士で対話したり、情報交換しながら考察を深めることができるようにしている。

・提出したレポートを学習管理システムの中で共有して、さらに相互レビューを共有することを重ねて、レポートの質的向上を図る。

・限られた時間を有効に使うことができるように、模擬授業を行いながら、授業観察の能力も高めるようにしている。なお、この方法であれば、なんらかの事情で非対面授業となった場合でも取り組むことが可能である。

・教育実習で使用する可能性が高いクラウド学習支援ツールを段階的に用いて操作に慣れるようにし、それらを活用した授業を構想できるようにする。

・教育実習前の準備学習のため教職課程の 3 年生用 Teams チームを構築し、課外に学習指導案の指導を行ったり、自主的な学びを支援するようにした。また、Teams 通話を用いて個人面談も行い、個々の課題を把握するとともに助言できるようにした。

その他（共通点）　：

・全学生は PC 必携が義務付けられているため、基本的に印刷資料を配布せず、PDF を配布するようにしている。

・発表への相互コメントなどは、上記のように ICT を活用するとともに、ときには手書きで手渡し交換するようにもしている。

・ICT 活用時は匿名で意見交換することもあるが、発表時はできるだけ発表者の氏名なども手元のワークシートなどに書き留めるようにし、「誰が何を発言したのか」に相互に関心をもつようにする（お互いの名前を覚えてつながりをつくりやすくするため）

**大学名：大手前大学　所属：国際日本学部　名前：古田 紫帆　作成日：2024 年 12 月 27 日**

## ４．教育の成果

A:

・2024 年度の授業アンケートにおいて「グループワークをもっとやりたかった」というコメントが複数みられ、グループワークへの期待が高かった。また、他の学生さんとのレポートの相互評価が勉強になったという指摘も見られた。

B:

・自分たちで文献を深く読み合って考えたことを交流したり、立案したアイデアを相互評価しながら構想を深めたりすることで、C-PLATS の中では特に「思考基盤力」を高めることができている。

・他の学生との議論や調査結果を踏まえた自分なりの考察を、視覚的にも「厚く」まとめることができるようにすることによって、自信につなげるようにしている。例えば「教育の方法と技術」では、多くの学生が 10 枚程度の最終レポートを作成できるようになっている。また、学生同士で複数回相互評価をして改良した上での提出なので、課題の提出形式上のミスや出題内容の捉え違えなどもほぼみられない（※１）。

・教育実習で悔いのない実習になるように、また、講師として声がかけていただけるように、教育実習前に自主的な模擬授業の実施や学習指導案の指導について、希望に応じて個別に補足的な指導を行った。本年度は私学２名の正規採用、公立 2 名の講師採用が決まった。なお、前年度の教育実習生で、自主的に模擬授業を企画したリーダーチームや、スクールサポーターに参加した学生は、学生功労賞として大学から評価を受けた。

## ５．改善への努力と今後の目標

A（１年生必修科目）とB（教職科目）では、今後の目標がそれぞれ対称的なものとなる。A は当該科目授業が大学生活の最初の居場所づくりとして機能することを目指しているが、そのためには、受講生の嗜好／志向性や経歴等に配慮しながら学生同士の関係づくりを行うことが重要である。本年度は、他学部のクラスを担当することになったためか、受講生のバックグラウンドに十分寄り添った上での授業づくりとしては不十分であったと思われるので、今後は個々の背景や現状により一層配慮しながら、できるだけあまりストレスなくクラス全体で関わり合えるようにしたい。B については、ある程度の厚みのあるレポートを書けるようになることによって、達成度を得ることができやすいが、内容の詰め込みすぎになりやすい。そのため今後はさらに学習ペースに留意しながら進めていく必要がある。

**【添付資料】**

（※１　資料１）受講生によるレポート例

[redacted] [redacted]

# 教育法法学最終レポート

[redacted]

## 目次


アブストラクト

第１章　子供の多様性を踏まえた理想の学校教育を考える .....2

第２章　子どもの多様性を踏まえた１時間分の授業の設計 .....5

第３章　総合考察・さらに深めたいこと・感想.....10



本レポートは「教育方法学」の授業において多様性と学校教育、IT と学校教育について学び、考えてきたことをまとめたものである。本レポートの全体を通して述べたいことは多様化が深まる中でより一層の個別最適な学びの重要性とそれを成し遂げるためのツールとしての ICT 活用の重要度ということである。このことについて、３章にわたって説明している。 まず第１章では、グループ活動を通して多様化を踏まえた理想の学校を想像し、多様化の中で学校に求められる教育とは何かを明らかにし、ほかチームの考えにも触れ、さまざまな生徒を対象とした学校づくりに触れた中で全校共通するのは子供たちに何か成長してほしいという思いを持っているということが多様性に対応する学校づくりだと考えた。

つぎに第２章ではロイロノートの活用を通して個別最適な学びと ICT 活用の繋がりが明らかになり、ICT 活用によって得られる授業効果の高さと重要性だと考えた。最後に第３章において社会の変容と学校づくりは密接につながっており、その中で子供第一に考えられる学校づくりが理想であると結論づけた。

# 第１章　　子供の多様性を踏まえた理想の学校教育を考える

## 1.　はじめに

本章では、子供を取り巻く環境の変化に伴う生き方や価値観、能力、課題が多様化する中で、子供一人ひとりの学びを大事にする教育とはどのようなものなのかについて考察したことを、以下の３つの項目に分けて記述する。

## 2.　問題提起

### 2.1　「多様化」が社会や学校にもたらすもの

「多様化」がもたらすもの。それは、相手のことを知り、受容することの大切さにつながると考える。ここに私は相手への理解を入れなくてもよいと考える。理解ではなく「そういうものだ」と受け入れることが多様化する社会に対応する一つのヒントであると考えている。社会や学校の多様化は海外の人との交流や、海外文化を知るといった大きなことだけでなく、異なる年齢の人々、異性や友人との交流を通して、コミュニケーション能力を養い、様々な考え方があることを知ることで、社会へ参画する力を養い、生きる力を養うことにつながると考えている。

### 2.2　本章の目的

子供が急激に変化する今を生きていく力を養うために学校が求められる教育とはどういったものなのかを先人の知恵と経験から導き出された様々な教育理念や教育方法に教わって考えた。

## 3.　「多様化」を踏まえた教育とは

### 3.1　「多様化」を踏まえた諸外国や先人の取り組みやアイデアの分析（先行研究）と自信が考える理想との関係

イエナプラン教育（独・蘭）にみられる学年をまたいだクラス編成。イエナプラン教育は主体的に学び続ける力を養うことを主たる目的とし、他者と協動しながら社会参画を促す。イエナプラン教育では生徒一人ひとりを教師が尊重し信頼する。そうした教師の目線が生徒が主体的に学ぶための力となっていると確信する。複雑な異年齢学級は教員の目線や思考を常に子供に向けることができ、異年齢学級であるからこそ異なる意見の対立と話し合いが行われる土壌であると考えて取り組んでいる。

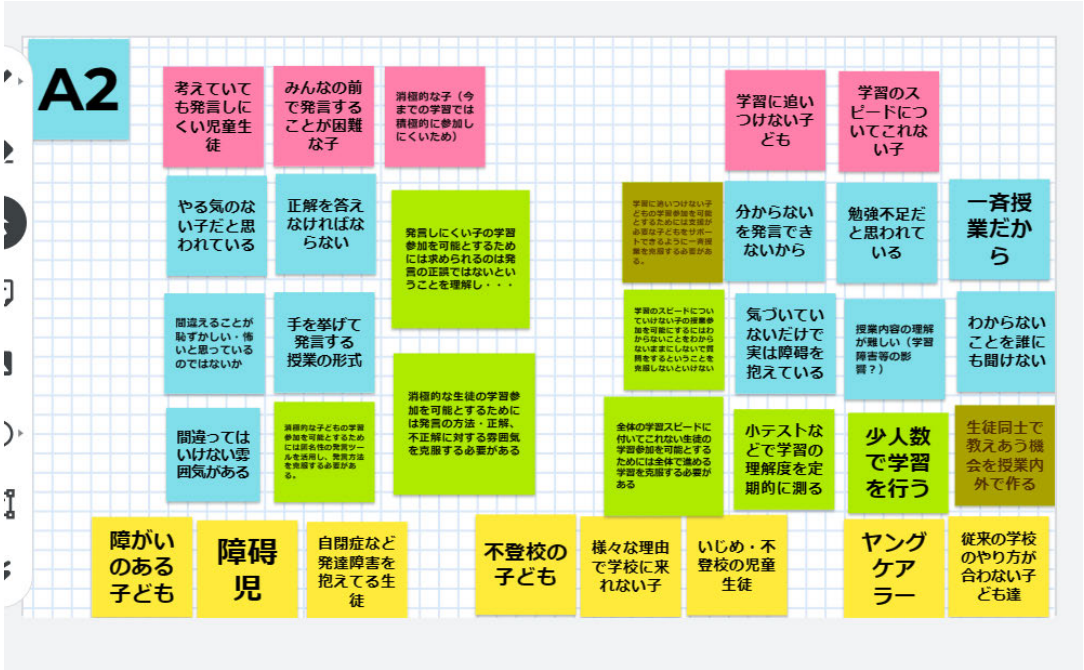
デューイは集めた知識を使えるようにすることが必要と考えたことから、いわゆる「問題解決学習」を目指した。その中でもデューイは【プラグマティズム】を重視した。経験や実践を重視し、知識というものは経験から生まれると考え、理論も経験を振り返ることで生ま

れると、とらえることで、Learning by doing（＝やりながら学ぶ）という概念の元、問題解決に向けて行動することを目指し、学びにおける経験の大切さを述べている。デューイは教育を連続的な成長のプロセスととらえ、学習を結果重視ではなくプロセス重視で考えている。

スキナーはオペラント条件づけを人間の教育に応用して「ティーチングマシン」を用いたプログラム学習を提示した。ティーチングマシンは学習者に対し、説明および説明を理解したか確認する設問を次々に提示し，学習者が解答すると、正解・不正解がすぐに知らされ、次の問題に移行する。これを繰り返すうち、最終的に当初の学習目標を達成できるようになるというものである。

### 3.2　チームで考えた１０年後の理想の学校教育

我々の理想の学校教育を考えるうえで様々な案が出たが（図１）、学習のスピードについていけない子供たちの学習を保証する学校教育を行いたい。という案に収束し、なぜ学習に参加することができないのか。そのメンタルモデルを想像した。




① <u>みんなの前で発言することが困難な子のメンタルモデル</u>

イ）間違えることが恥ずかしい。

ロ）失敗したくない。

ハ）手を挙げる勇気が出ない。などがあげられると考えた。

② <u>学習のスピードについていけない子のメンタルモデル</u>

イ）一斉授業のせいでわからないところを聞けずにそのまま進んでしまう。

ロ）わからないことを聞くことができない。

ハ）何がわからないのかがわかっていない。などがあげられると考える

## ③　その中でどのような支援・成長が求められるか

みんなの前で発言することが困難な子の学習参加を可能とするためには間違うことは恥ずかしいことではないということを克服する必要がある。と考え、学習のスピードについていけない子の学習参加を可能とするためにはわからないことを聞くということを克服する必要がある。と考え、どのようにして生徒を支援するかの案をまとめた。(図２)

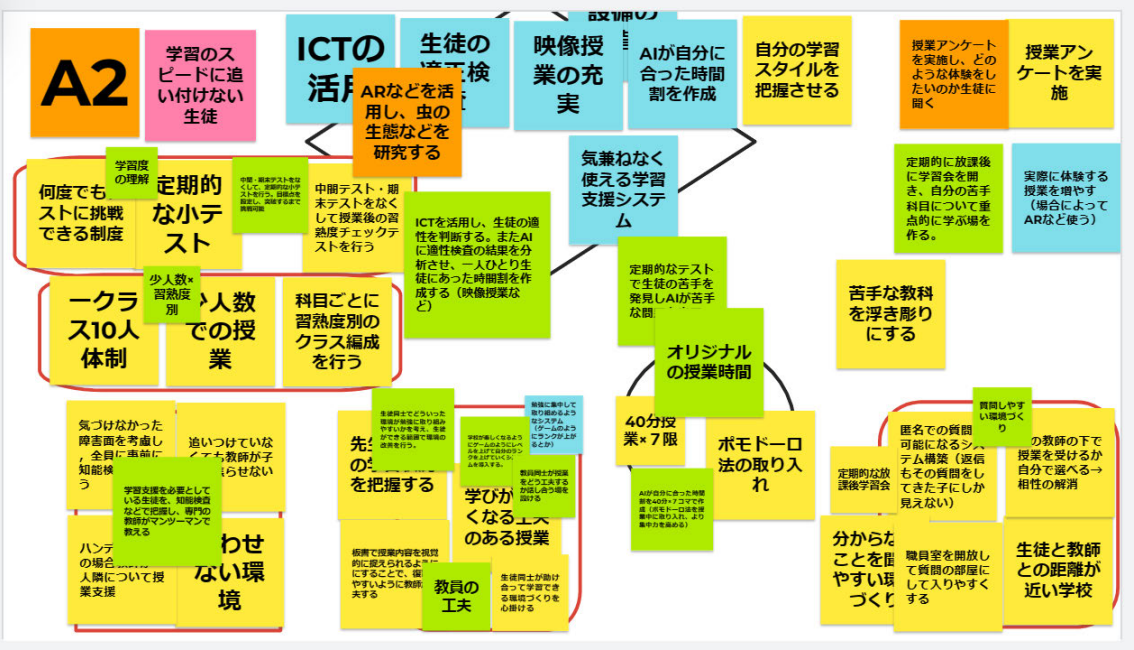



図２　案のまとめ

その中で我々は学習のスピードについていけない子の課題と解決に至るための案を出し合いまとめ、本校の教育方針の位置づけとして、まとめた。(図３)

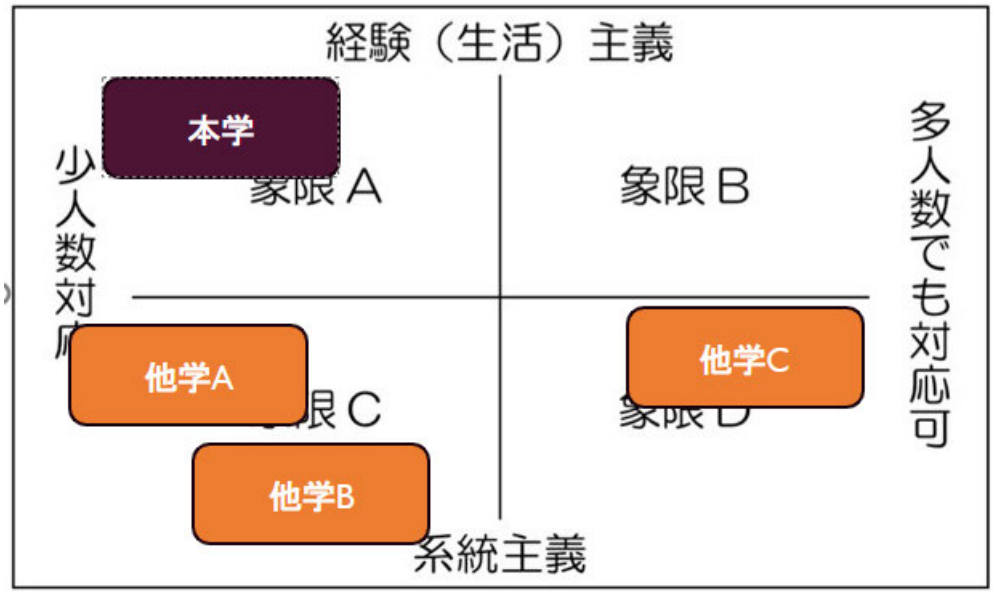



図 3　教育方針の位置づけ

理想の学校教育の形として・少人数集中授業の実現・ICT を活用した新しい教育・経験主義に基づいた生徒の育成・幅広く自由度の高い教育・誰でも意見を出して学べる環境づくり目指した。

### 4. 他チームとの意見交換（質疑応答の記録を含む）を踏まえて総合考察したことと今後さらに深めたいこと

小中高様々な種類の理想の学校が出た。多様性の壁とは、社会参画に求められる資質とは、生徒の評価方法、一部のコミュニティだけでなく外に出で様々なコミュニティを知りコミュニケーションを深めることを求めたり、それぞれの学校で様々な特徴が見られた。その中でも全校共通するのは子供たちに何か成長してほしいという思いを持っているということに気づいた。実際の公立校はどのような視点から独自性を見出しているのか。私立校の独自性の出し方との比較をしてみたいと思う。

## 第２章 子どもの多様性を踏まえた１時間分の授業の設計

### １．はじめに （※ ここは全員共通の内容なのでこのまま打つ）

本章では、子どもの学びの多様性に対する個別最適化に着目しながら１時間の授業を自身で設計することを通して、どの子どもにとっても充実した学習時間を提供するために必要なことは何かについて考察したことを記述する。

### ２．問題提起

#### 2.1. 個別最適化された学びとは

（※「個別最適化」がどのようなものであるかを説明するとともに、なぜ重視されているのかを説明しよう）

個別最適な学びについては「指導の個別化」と「学習の個性化」に整理されている。

「指導の個別化」

子ども一人一人の特性や学習進度、学習到達度に応じて指導方法・教材・学習時間等の柔軟な設定を行うことや、支援が必要な子供のより重点的な児童を行うことで効果的な指導を実現することで、すべての子供に基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させ思考力・判断力・表現力等や粘り強く学習に取り組む態度等を育成する。ここでは一定の目標をすべての児童生徒が達成することを目指し、その中で個々の児童生徒に応じて異なる学習を進め、

児童生徒は自らの特徴やどのように学習を進めることが効果的であるかを学んでいく。

「学習の個性化」
子どもの興味・関心・キャリア形成の方向性等に応じ、教師が子供一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供すし、個々の児童が異なる目標に向けて、学習を深め、広げることで、児童生徒自身が自らどのような方向性で学習を進めていったらいいか考える。

### 2.2. 本章の目的（※上記の問題を踏まえて本章で考えるべきことと、あなたにとってこの章をまとめることのメリット）

個別最適な学びについて「指導の個別化」と「学習の個性化」二つの視点を理解し、ICT を活用し、この両方を達成するにはどのような授業を展開したらいいかを考え、る

## 3．設計した授業

### 3.1. 教材研究

**① モデル授業の情報**

**・教科・単元、学年、授業担当者・学校名**

| | |
|---|---|
| 学年 / 教科 | 中1/社会/地歴公民 |
| 単元 | ヨーロッパ州 |
| 指導要領 | B 世界の様々な地域 (2)世界の諸地域 ②ヨーロッパ |
| 教科書会社 | 社会科中学生の地理＜世界の姿と日本の国土＞ 帝国書院 |
| 授業者 | 郷司 敬（八尾市立志紀中学校） |

**・モデル授業が展開する「個別最適な学び」と展開イメージ図**

EU の発足理由を考えて数人の答えを共有しまとめる（指導の個別化）（学習の個性化）、EU の成り立ちと EU に入ることでできることを知り、そこかな EU の課題について考える（学習の個性化）、その後 EU の未来について班で考え意見を共有する（指導の個別化）（学習の個性化）。

**② 作成した学習指導案の題材のねらい（≠学習目標（学習意義の探究）**

<u>この授業が生徒に必要である理由</u>（発達段階や学習・生活環境等を踏まえ、なぜ授業でとりあげた内容について学び・考えなければならないのか、学んだことによって何が変わるのか、題材の難易度、他教科での学びとの関連等）

「今」社会の課題を知り、解決方法を考えるためには、課題が発生するまでに何があったのか「過去」を振り返り、なぜ発生したのかを理解して、これから「未来」に向けてどのようにすれば解決できるかを考えることが出来る。課題ひとつにしても、メリットデメリットがあり、いろんな考えの中で、一つの答えを出す必要があることの難しさや重要性を知ることが出来る。

| |
|---|
| |

③　生徒が夢中になるポイント

| |
|---|
| 答えの出ない課題を、たくさんの人と協力して討論をすることで、たくさん会話し、一つの目標にみんなで取り組むことで、協力する楽しさや達成感を得られる |

④　学習目標と生徒の回答・反応・思考の予測

| 本時の学習目標（生徒はこの１時間で何ができたらいいのか）：<br>EU の設立目的と EU が抱える課題について自分の考えを説明できる | | | |
|---|---|---|---|
| | 難易度・高<br>（得意な生徒に期待すること） | 難易度・中 | 難易度・低<br>（支援を要する生徒も「これならできる」ということ） |
| 例）中心設題:子育て世帯の献立例 A~D から最も適切な献立を選択しよう。 | ５大栄養素を用いてバランスを分析するとともに材料費や調理手順を調べて検討している<br><br>複数の理由から自分の言葉で EU の設立理由を説明できる<br><br>EU の抱える課題を複数の視点から自分の言葉で説明できる | 簡単につくることができそう、身体によさそう、子どもが好きそうなメニューなど、いずれかの基準でさっと決める<br><br>複数の理由を教科書を引用して説明できる<br><br>EU の抱える課題を教科書を引用して複数答えることが出来る | 隣の人の回答を真似る<br><br>EU がなぜ設立されたかを教科書を引用して一つ説明できる<br><br>EU の抱える課題を教科書を引用して一つ答えることが出来る |
| 中心発問・課題：<br>（　　） | EU はなぜ作られた<br>EU の課題は | EU はなぜ作られた<br>EU の課題は | EU はなぜ作られた<br>EU の課題は |

→　どのようにして学習状況を確認するのか？（評価計画）

知識・技能，思考・判断・表現，主体的に学習に取り組む態度から選択→【思考・判断・表現】

評価規準を記述→（【思考・判断・表現】EU の設立目的と EU が抱える課題についてなぜそうなのか調べたことを自分の言葉で説明できる）

（例：【知識・技能】木材を綺麗に切るためののこぎりの使い方を角度や方向、速さの視点から説明することができるか）

### 3.2.　授業設計をして考えたことと参考文献・引用文献

課題解決のためにはまずどのような行動をとればいいかを EU が抱える課題を EU の

「今」と「過去」と「未来」見る中で考えることを目標に、グループで話し合いを行うことで自分とは異なる考えに触れて、議論を活発にさせようという狙いを以って計画を練った。ある課題において自分の考えを相手に伝えるときにどのように伝えればよいかや社会が抱える課題の見方などを養うことを目的とした。

### 3.3. 学習指導案

＜＜　ここに、Class11 に提出した学習指導案の改良版をそのままコピペする　　＞＞

※　ファイルのリンクを貼らない

## 学習指導案 ver.1　　氏名（宗像圭太　）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 単元：【ヨーロッパ州】教科・領域【社会科・地理】<br>対象学年【中学１年】　本時の時間：第【　　】時間目／【　　総時数】 | | | |
| この時間になにができたらいいか（本時の学習目標）<br>【EU の設立目的と EU が抱える課題について自分の考えを説明できる】 | | | |
| 時間<br>（分） | 設題，生徒の学習活動，言動<br>（予想できる反応や思考も含む） | 指導上の留意点<br>（準備物も含む） | 評価<br>（何をどう確認するか） |
| | 中心発問／課題<br>例）なぜ～は・・・なのだろか？<br>例）～と・・・はどのような関係になっているだろうか？<br>例）一番＋＋になるのはどのようなときだろうか？その秘密をさぐるため<br>に～が・・にたストうに＊＊してみトう | | |
| | 予測できる反応　例<br>例）＃＃に気づき＊＊と関連付けて考える<br>・例）＆＆を提示できるが根拠を説明することができない<br>・例）¥¥に着目できるが＄＄への影響力を考慮で | 手立て　例<br>・例）誤答例を分析する中で～に着目できるようにする<br>・例）異なる役割を用意して相互サポートできるようにする<br>・例）時系列で考えることが | ¥¥の影響力を表現できているか（思考・判断・表現）<br>ヨーロッパの歴史的背景とリンクさせて EU のできた背景に気付く事が出来る<br>経済と政治の協力機 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | きない<br>EU （ヨーロッパ連合）とはどんなグループ？なぜ作られた？<br>ヨーロッパの歴史的背景とリンクさせて考えられる<br>ヨーロッパはなぜ協力しなければならないのかについて気付いて説明できる<br>ヨーロッパと世界との関係に着目して説明できる。<br><br>≪動画視聴１～８≫EU に入るメリットデメリットを確認<br>↓ | できるように工程表を用意する<br><br>欧州の歴史について知らない子もいる。ヨーロッパがどんな歴史をたどったかをプリントにして配布<br>動画１を視聴<br>アジアとヨーロッパの地図を比較する<br><br>手立て<br>・動画１～８を視聴しメリットデメリットを書き出す | 構ということが述べられている（特に経済）<br>経済（関税や移動の自由、独自の通貨ユーロについて述べられているか）<br>大国に対抗するために協力する組織として作られた<br>ヨーロッパは大陸であるということを理解して、国家同士の繋がりを考えることが出来る |

発問／課題

例）・・を@@で表して気づいたことを説明しましょう。

EU のメリットデメリットはどのような関係にあるか動画を見て気づいた

| | | | |
|---|---|---|---|
| | ユーロという共通貨幣のメリットデメリットについて考えられる<br>パスポートなく自由に移動できることのメリットデメリットについて考えられる<br>協力関係であることのメリットデメリットについて考えられる<br><br>あなたがヨーロッパの | ・ほかのメリットデメリットを各自で調べる | 調べたメリットデメリットをなぜメリットなのかデメリットなのかを説明できる<br>メリットデメリットを自身の生活として考えられる<br>ヨーロッパの位置関係からメリットデメリットを説明できる |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | 国の代表になったときEU に入りたいか入りたくないかを考えて、班の人に理由を説明する。→班の意見を発表 | | |

## 第３章 総合考察・さらに深めたいこと・感想

多様性を踏まえた教育の実践例を考察し、先人たちの教育思想に触れ、急激に変化する社会の中で子供たちの生きる力を養うヒントを得た。その中でグループ活動で理想の学校像をつくり、ほかのグループの理想と比較・検証をして、多様化する社会の中での教育の在り方について考えた。その中でも全校共通するのは子供たちに何か成長してほしいという思いを持っているということに気づいた。実際の公立校はどのような視点から独自性を見出しているのか。私立校の独自性の出し方との比較をしてみたいと思う。

多様性を踏まえた授業とはどういったものか。個別最適な学びと ICT 活用という言葉をヒントに考察し、ほかグループの意見や授業デモンストレーションを通じて考えることが出来た。中でも「指導の個別化」と「学習の個性化」の両立に苦労していたという印象を持った。ほかの個別最適な学びの実践例などを調べて今回の講義内容を深めたい。